

## 人民元の切り上げによる影響

### ～中国企業が対外進出を進める契機となれば影響大きい～

- 中国政府が人民元の切り上げに踏み切るとの観測が強まっている。どのタイミングで切り上げられるかはさておき、ドルペッグ制の維持に無理が生じつつある状況を考えれば、やはり避けては通れないものとみられる。
- 切り上げによる影響としては、基本的には中国に起こりうる変化を基点に考えるべきとみられる。円を含むアジアの通貨が全般的につれ高するとの見方もあるが、恐らくは短期的な動きにとどまろう。下図でみるとおり、ドル元レートで元高が進んだ07～08年についても、円元レートに一貫した傾向がみられるわけではない。
- 中国で起こりうる変化については、やはり輸出品の競争力低下と、元の購買力上昇による対外投資の増加の2点が挙げられよう。切り上げは小幅なものにとどまるとの見方が一般的で、いずれにしても大きな変化にはならないとみられるが、どちらかといえば後者への注意が必要ではないか。前者による日本への影響はある程度相殺されるとみられるからである（大まかには「中国製品の競争力低下によるプラス」と「対中部品輸出のマイナス」等）。対中貿易収支にも、かつてほど極端な傾向はみられない。
- 一方、中国企業の対外進出については、日本企業に対するM&Aの増加、ASEAN等のアジアへの進出などが考えられるほか、天然資源に対する投資も増えることになろう。これらの動きが、技術の流出をはじめ、資源・人材コストの上昇を通じて日本の国際競争力低下につながることは間違いない。特にM&Aについては、事業承継問題の深刻化する中小企業がターゲットとなる可能性が高い。
- 中国国内での人件費上昇をはじめ、外国企業の技術獲得への意欲の高まりなど、もともと中国では対外進出を積極化させる理由に事欠かない。今回の切り上げが一つのきっかけとなり、対外進出に弾みがつく可能性もあるとみられる。

